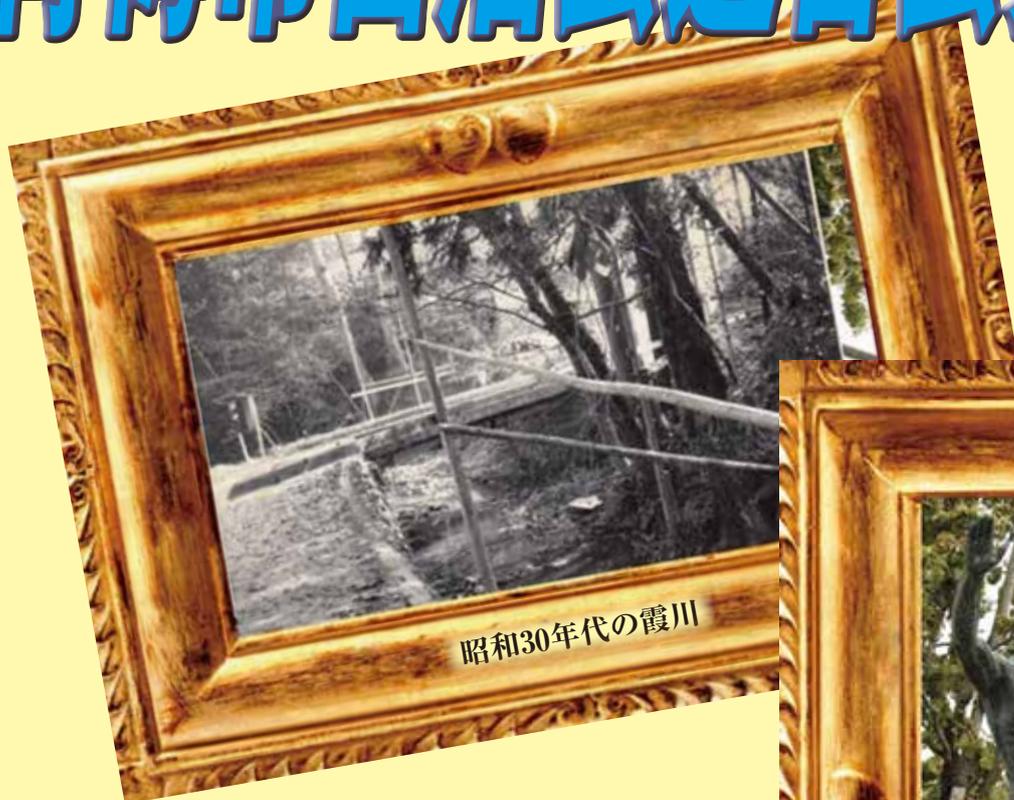


青梅市自治会連合会第八支会



昭和30年代の霞川



平和の像

創立50周年記念誌

昭和41年第八支会発足

— 目 次 —

1 祝 辞

創立50周年に寄せて	第八支会長	宮口 泉	2
創立50周年を祝して	青梅市長	浜中 啓一	3
創立50周年を祝して	青梅市議会議員	山本 佳昭	4
温かさや活力ある地域社会を	衆議院議員	井上 信治	5
祝 辞	都議会議員	野村 有信	6
創立50周年を祝して	市議会議員	結城 守夫	7
第八支会創立50周年の祝辞	市議会議員	片谷 洋夫	8

2 第八支会の概要と歴史

9

3 第八支会関連団体の紹介

10

第八支部婦人会、青少年対策第八支会地区委員会、東青梅地区環境美化委員会、
消防団第八分団、第八支会地区防災対策委員会、第八支会体育振興会、
青梅女性防火防災の会、第八支会地域の安全を守る会

4 第八支会創立50周年記念座談会

11

第八支会のこれまでとこれから～次の50年の始まり～

5 第八支会16自治会長からのメッセージ

29

6 第八支会年間の主な活動

41

7 第八支会の柱となる事業紹介

42

- (1) 防災活動
- (2) 防犯活動
- (3) スポーツ行事

8 50周年記念事業を機に躍進する事業

45

第八支会ささえあいフェスティバル～新たな視点での自治会活動を目指して～

9 第八支会よもやま話

47

※ 資 料

58

- 歴代自治会長名簿
- 第八支会世帯・人口推移
- 第八支会を中心とした地域の沿革

※青梅市自治会連合会第八支会50周年事業実行委員会

69

編集後記

70

第八支会の旗の由来



中央に富士山の絵が描かれていますが、これは日本一の富士山と第八支会の八の字を重ねたものとなっています。また青梅第八支会の文字に「市」が抜けていますが、これは市内の自治会の単位ではなく日本一の支会を目指すということで意図的に「市」を抜いたそうです。

このように、第八支会旗には第八支会が日本一の支会を目指すといった願いが込められています。(平成13年9月作成)

第八支会のキャッチフレーズについて

「明るく 楽しく 元気よく」

自治会活動の真価が最も問われるのは災害時ではないでしょうか。

常日頃、お隣さんへのあいさつや子供への声掛け、ゴミ収集など地域活動やコミュニティーを通し、顔がわかり、お互いを気遣うようになっているのではないのでしょうか。

また、これらの活動の積み重ねが、災害時ではだれが無事なのか、だれがいないのかが瞬時にわかることができるのではないのでしょうか。

そして、第八支会のキャッチフレーズである「明るく 楽しく 元気よく」の活動が平素からできていれば、災害時での敏速な救助活動や避難所でのお互いを気づかう活動につながっていくのではないのでしょうか。

こういったことから、第八支会自治会員の連帯感を高め「仲間」としての意識を強く持っていただけるようこのキャッチフレーズをつくりました。

第八支会創立50周年に寄せて



青梅市自治会連合会

第八支会長 宮 口 泉

青梅市自治会連合会第八支会が本年度創立50周年を迎えることとなりました。

支会運営に関わる者として心より嬉しく思います。

半世紀の長きにわたり活動を継続、発展されて来られた自治会長、自治会役員各位の献身的なご努力、ご尽力に対しまして衷心より感謝するとともに敬意を表します。併せて青梅市、関係諸機関のご支援に心より感謝申し上げます。

先だって行われた「第八支会創立50周年記念の座談会」において「支会旗」を作った経緯が明らかになりました。それによると「八」の字を「富士山」に見立て、あえて「青梅第八支会」としたのだそうです。青梅で一番でなく日本で一番の「支会」を志向した気概を強く感じました。これからも「支会旗」のもと、結束して活動を継続してまいりたいと思います。

さて、今般の自治会活動の状況は極めて厳しいものがあります。「加入促進」がままならず「脱会者」も激増しています。青梅市全体で50%を大きく割り込んできました。この「自治会離れ」に何とか歯止めをかけなくてはなりません。「すまいるカード事業」の成果にも期待したいと思います。

また、「防災」が今後の自治会活動のキーワードであることは間違いありません。また、「地区防災組織」の充実と「避難行動要支援者支援制度」への取り組みを適切かつ円滑に実施できるように今後とも協議を継続してまいります。

「不易」と「流行」を見間違えないよう、慎重かつ大胆に役員一同、力を合わせて取り組んでまいりますことを約束し、挨拶といたします。

創立50周年を祝して



青梅市長 浜 中 啓 一

青梅市連合自治会第八支会が発足して50周年という節目の年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

青梅市連合自治会が発足した昭和35年は、第八支会の地域は、第三支会に含まれていましたが、昭和41年には、東青梅地区11自治会1,917世帯が独立して第八支会が発足しました。そして50年を経た現在、第八支会は16自治会7,753世帯を数える多くの会員を擁するまでに発展しました。

この半世紀の長きにわたる、歴代の自治会長、役員の皆様をはじめ、会員の皆様の弛まぬ御努力に深く敬意を表する次第であります。

現在、私たちの社会を取り巻く環境は、急速なスピードで変化しております。人口減少や少子高齢化、家族構成の変化や地縁関係の希薄化などの中で、地域コミュニティの役割が今まで以上に重要になっております。

そうした中、第八支会の皆様は、発足当初より、「明るく 楽しく 元気よく」のキャッチフレーズのもと、防犯・防災活動、青少年健全育成事業や霞川の清掃をはじめとする美化・ごみ減量運動など、住民福祉の発展に取り組まれています。またビーチボール大会などの事業により、地域市民の健康づくりや会員相互の親睦を図られ、さらに50周年となる今年は、記念事業として「ささえあいフェスティバル」を開催するなど、地域の絆をはぐくんでおられます。

「誰もが安心して、生き生きと暮らせるまち」の実現には、自治会活動が大きな原動力となります。今後も、まちづくりの大切なパートナーとして、第八支会の皆様の更なるご協力をお願い申し上げますとともに、貴会のますますの発展と会員皆様のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

第八支会50周年を祝して



青梅市議会議長 山本佳昭

青梅市自治会連合会第八支会の創立50周年ならびに記念誌の発刊に際しまして、心よりお祝い申し上げます。

第八支会は、昭和41年に第三支会から分離独立して発足され、歴代の支会長さんをはじめ多くの役員の皆様のご努力の積み重ねにより、現在の充実した組織を築き上げてこられました。

また、「明るく 楽しく 元気よく」というキャチフレーズを掲げ、各種支会活動を積極的に展開され、本市における安全・安心のまちづくりの実現のために、ご尽力を賜っておりますことに対し厚く御礼申し上げます。

さて、現在、我が国は人口減少と少子高齢化社会を迎え、自治会活動を取りまく環境も大きく変化しております。

全国的にも自治会の加入率が低下し、地域のつながりが希薄化している中で、関係者の皆様にとってはご苦勞がたえないことと存じます。

そのような状況の中でも、自治会未加入世帯への加入促進や地域のふれあい活動、青少年の健全育成、防犯、防災活動など様々な支会活動を通し、地域コミュニティの醸成ならびに住民福祉の向上にご協力を賜っておりますことに、深く敬意を表するとともに改めて感謝を申し上げます。

社会環境が大きく変化する中で、住民の皆さんが安心して暮らしていくためには、地域でお互いに支え合い、助け合う共助の精神が大変重要でございます。

今後とも第八支会の活動を通し、明るく住みよいまちづくりの実現のために、ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

私ども市議会といたしましても皆様と力を合わせて、明るく住みよいまちづくりの実現のために、より一層努力して参る所存であります。

結びに、青梅市自治会連合会第八支会のますますのご発展と関係者の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申しあげまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

温かさと活力ある地域社会を



自由民主党副幹事長

団体総局長

衆議院議員 井上 信 治

青梅市自治会連合会第八支会創立五十周年、おめでとうございます。宮口泉支会長はじめ歴代の役員の皆さまが、公私多忙の中、半世紀に渡り、様々な親睦行事や環境美化、防災・防犯等、地域を支える自治会活動を主導してくださっていることに敬意を表します。私も、第八支会の温かい地域コミュニティーの姿に敬服しています。

さて、本年4月、熊本県で大きな地震が発生しました。私も当時環境副大臣として毎月熊本に通い、被災地の復旧・復興に努めておりました。災害時の安否確認や負傷者の救出、災害後のごみ処理に至るまで住民相互の協力は非常に重要であり、自治会の重要性を実感しています。そのようなことを考えるとき、皆様の第八支会をはじめ青梅市では、心温まる人々のふれあい が保たれていることに誇りに思います。

現在、政府には「地方創生」を強力に推進しており、「中心市街地の活性化に関する法律」により都市機能の増進と経済活力の向上を後押ししています。おかげさまで、青梅市は今年、東京で初めて内閣総理大臣による同法の「基本計画」の認定を勝ち取ることができました。第八支会のエリアでも日本ケミコン跡地に新市民ホールを含む複合施設や保健所を設置し、隣接する都市計画道路を整備するほか、東青梅駅前では創業支援のためのコワーキングスペースの運営を計画しています。

認定により、これからの事業を国が全面的に支援することが可能となりました。今年度は青梅市から「地方再生加速化交付金を受ける事業も採択されたところであり、青梅市政の中心地を含む第八支会の地域発展のためにも、国・青梅市が一丸となって取り組んでまいります。

最後になりますが、第八支会の益々のご発展と地域の皆さまの一層のご活躍を祈念申し上げます。

祝 辞



東京都議会議員 野村 有 信

青梅市自治会連合会第八支会が創立50周年を迎えるにあたり、地元関係者各位のご努力の賜物に敬意を表します。

また、50周年記念誌を発刊されることは、第八支会の歴史と経過を後世に記録を引き継ぐ意味からも誠に意義深いこととお慶び申し上げる次第です。

さて、この50年を振り返ってみますと、戦後の混乱からの再興、そして高度成長期を経て、日本は恵まれた豊かな国となりました。

平均寿命が驚異的な伸びで、高齢者人口の比率も高くなり、それが持続する高齢社会となりました。一方では、少子化が進み、次代を担う子供も減少しています。

青梅市では、現在人口は、およそ137,000人で今後減少が予測されます。平成40年頃には青梅市では、高齢者が30%を超えることが現実となっています。

この状況下で安心して暮らせる社会をつくることが大切です。私は安心子育て・安心老後・安心安全・幸せの街青梅をめざして全力で行動しています。

こうした中で、自治会を取り巻く状況は加入者の減少が著しく、大変ですが地域のコミュニケーションには自治会は必要であると確信をしております。

今後、高齢化社会の進む中、運営は厳しいことが予想されますが、みなさまで協力して明るい街づくりを進めてください。

結びにあたり、第八支会の益々の発展と関係者各位のご健勝を祈念申し上げまして、50周年の祝辞と致します。

第八支会創立50周年記念を祝して



青梅市議会議員 結城守夫

第八支会創立50周年、まことにおめでとうございます。

第八支会は昭和41年には、第三支会の発展に伴い、東青梅地区の11自治会（現在は16自治会）を構成団体として発足いたしました。

その後関連団体として、第八支会の婦人会、青少年対策地区委員会、地区環境美化委員会、地区防災対策委員会、体育振興会及び地域の安全を守る会等が結成され、地域の親睦団体としてはもちろんのこと各種機能別の活動も活発に行われて参りました。

このような安全・安心の地域活動が行われていることは、住民にとっては、日常生活を支える大きな財産となっていることは間違いありません。私も第八支会に居住して22年になりますが、この思いは日頃より実感しているところです。改めて地域の活動にご尽力いただいた役員等の方たちに御礼申し上げたいと思います。

今後の青梅市の大きな課題は、人口減少・少子高齢化が進行しても、市民の皆様の暮らしをどうしたら豊かに作り上げていくことができるかであります。

そのために今、青梅市は総合病院の建て替え計画や公共施設の再編計画を市議会と連携しながら、長期的視点から構築しようとしています。その主な計画対象となっているところが第八支会地域なのであります。まさに第八支会が青梅市の名実ともに中心となろうとしているこのときに、支会50周年の佳節を迎えるというのは大変に意義深いことであると思わずにはいられません。

これからも第八支会のモットーである「明るく 楽しく 元気よく」を合言葉に、第八支会がますますご発展されることを、第八支会の住民として心よりご祈念いたします。

第八支会創立50周年の祝辞



青梅市議会議員 片谷 洋夫

青梅市自治会連合会第八支会が創立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。これもひとえに、宮口支会長はじめ、歴代の支会長、自治会長、役員、会員の皆様方が自治会活動にご尽力されてきた賜物であると、心から敬意を表します。

第八支会地域に約40年間住んでおりますが、幼少の頃には地区対抗の運動会や球技大会など参加させていただき、たくさん友人、思い出を作ることが出来たことを改めて感謝申し上げます。

近年では、核家族化傾向に伴い、自治会加入率もまた低下傾向にあり、地域コミュニティーが希薄化してきているとも言われております。頻発する自然災害において、地域のつながり、地域コミュニティーの重要性が改めて認識されるところでもあります。

第八支会におかれましても日々加入促進にご尽力されておられると存じます。自治会への加入促進の方策として、市も支援をしております「すまいるカード」を平成26年に始められ、協賛企業も年々増えております。

第八支会の皆様におかれましては、「明るく 楽しく 元気よく」をモットーに、地域のつながりの向上、地域の安全・安心な暮らし、環境のため、防災対策委員会、青少年対策委員会、環境美化委員会などの関係団体と連携し様々な活動、諸行事に取り組みされており、その活動に一会員としても深く感謝いたします。今年で17回目を迎えた霞川清掃では、毎年多くの方が参加され、一昔前とは、見違えるようなとても美しい霞川になりました。

また、本年では青梅市を代表するスポーツイベントの青梅マラソンも50回という節目を迎え、盛大な大会となりました。

第八支会が50周年を迎え、今後ますます発展されますことをご祈念しお祝いの言葉といたします。

4 第八支会創立50周年記念座談会

第八支会のこれまでとこれから

～次の50年の始まり～



座談会出席者（敬称略）

第八支会長 宮口 泉

元東青梅2丁目2自治会長 伊藤敬司

元師岡町1丁目自治会長 山崎一夫

元旭ヶ丘団地自治会長 藤平志郎

第7代青梅市長 竹内俊夫

元東青梅4丁目自治会長 原田健次

元師岡町2丁目自治会長 屋代明男

第八支会副支会長 池田政次（司会）

平成28年6月7日(火) 於：東青梅市民センター 午後6時00分開会

記憶に残る自治会活動

池田 ただいまより第八支会創立50周年の記念座談会を始めさせていただきます。今日は、現役の自治会長にも皆様のお話を拝聴させていただき、第八支会の発展のための参考とさせていただきます。なにとぞよろしくお願い申し上げます。まず宮口支会長からあいさつをいただきます。

宮口 本日はお忙しい中を、第八支会創立50周年記念の座談会にお集まりいただきましてありがとうございます。

今年は、第八支会50周年の節目に当たりまして、様々な記念事業を実施して参ります。その一番大きな柱として記念誌の編さんがあります。何分にも50年間の資料が散逸しております。第八支会でご活躍された皆様にお集まりいただきまして、いろいろなことをお聞かせいただければと思っております。

ちなみに50周年の取組みは、「記念式典」を1月14日（土）に霞共益会館にて開催を予定しています。また「ささえあいフェスティバル」を10月8日（土）、9日（日）に当市民センターと師岡会館を使用してさまざまなイベントを開催します。

本日の話し合いが今後の第八支会の進むべき方向を示していただけますよう期待しています。本日はよろしく願いいたします。

池田 早速、座談会を始めさせていただきます。

今日の座談では、まず、皆様が自治会長時代に取り組みられてきた課題と、その課題に対する対応などの話をさせていただき、その後にこれからの第八支会についての提言をいただきたいと思っております。よろしく願います。

藤平 私は4年間自治会長に在任して、後半の2年間、副支会長を務めました。当時の支会長は辻村さんで非常に積極的な方で、私は補佐しながら活動しました。

活動の主な内容は、まず「地域の安全を守る会」これを第八支会が青梅市の動きの前に真っ先にスタートさせました。次に「防災計画」これは竹内市長さんの時に、青梅市で本格的な防災計画が出た年でしたね。ちょうど中越大地震の直後だったものですから、我々も「大地震のときに自治会長はどう動くべきか」ということが課題になりました。

小千谷の市役所に視察に行き、「結局、市の職員は動けませんよ。自治会がうまく動いたところが助かったんです」という話を散々聞かされてね。この時期に市からちょうど防災計画が出たものですから、私も真剣に防災計画を検討しました。けれども、その防災計画の時に少し残念だったのは、災害発生時に自治会長の具体的な対応が非常に大切なのに、自治会長と市の防災計画との絡み合いがはっきりしなかった。市の防災計画はしっかりできているのですが、それと自治会長がその計画の中でどう動けばいいかというものが確立してなかったとありましたね。



元旭ヶ丘団地自治会長 藤平志郎氏

それから、ゲートボールから変わってグラウンドゴルフがスタートし、そのことへの対応を図ったこと。また、青梅ふれあいまつりがスタートした時期でもありました。

原田 グラウンドゴルフがスタートした時に、気になったことがありました。当時一生懸命ゲートボールをやっていた方が「急に寂しくなった。我々の目立つところなくなった」と話されました。ゲートボールとグラウンドゴルフ両方やっている人は2つもやれて楽しいんですけど、ゲートボールまっしぐらの方は、寂しい思いをしていたんだなという覚えがあります。今もそういうところが若干あるんですね。その辺、何か考えてもいいのかなと思うんですけど、時代の流れだから仕方がないんですけどね。

屋代 第八支会の50周年記念誌に関して話をさせてもらうけど、私が自治会長のときに1冊の記念誌を作ったんですよ。その経験から、いわゆる「記念誌」の背景には歴史があるわけなんで、その歴史を調べていかなきゃいけないということですね。

例えば、第三支会から第八支会に分かれたけれども、どうして八支会の名前になったかという事実ですね。これをほとんど知らないと思うんですよ。それらの歴史的な過程を入れることと、自治会長なり支会長なり、歴代の支会の役員をやった名簿というものも載せればいいんじゃないかと思うんです。これは第八支会の発展のためにみんな努力してやっているわけですから、やはり載せるべきじゃないかと思うんです。第八支会50年といったら非常に長いものですから。その中に自治会のあり方というものちゃんと書くべきですね。東青梅市民センターができる前、ここには鋳物工場があったんですよ。

池田 現在の東青梅市民センターの場所ですか。

屋代 そうです。鋳物工場がありました。昭和52、3年にできたのかな。工場が瑞穂に引っ越しちゃって、ここに東青梅市民センターできたわけなんで、こういういきさつ、歴史的なものをまとめるということも大事だと思うんです。

ですから、記念誌はあくまで歴史というものに重点を置いたものにして、経過がわかるようにするということが大事だと思うんです。経過を大切にすると、記念誌を読んで、第八支会の歴史を知らない人に、「ああこうだったのか」ということにつながってくるわけです。記念誌の中にみんなが知らないようなことを掘り下げて調べるということも大事だと思うんです。

池田 第八支会の歴史の経過を大切にしたら後に伝えていこうということですね。

屋代 そうです。先ほど記念誌を作ったと述べましたが、その記念誌の中に、昔、ガリ版で自治会総会資料を書いていた、そのガリ版資料をそのまま記念誌の原稿に入れたら、印刷会社が全部活字に直しちゃったから、「これはだめだ。もとのガリ版の字で記念誌に残さないといけない」と言って修正させたのです。このように、昔のやり方を資料として記念誌に残すことが大事だと思うんです。



昭和46年河辺駅周辺

池田 屋代さんがおっしゃったように歴史を大切にということで、現在、國生センター長に様々な資料を収集していただいているのですが、なかなか集まらない状況です。皆様方から第八支会50年にかかわる写真などの資料の情報があつたら教えていただくとありがたく思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

自治会と防災

池田 次に、竹内前市長さん、先ほど中越地震の話があったのですけれども、あの時はいかがでしたか。

竹内 今、南相馬市の応援をするということで、杉並区が中心なんですけれども、それに加わって、青梅市の職員も3人応援に今年も出ているのですけれども、そのメンバーに小千谷市も入っていましたね。そういうこともあって、いろいろ小千谷市とは交流がありまして、特に防災に関して向こうは経験者なものですから、記念館へ行ったりとか、そういう交流もしています。

藤平 小千谷の市役所に研修視察に行ったときに、実にリアルに震災が起きてからの救援状況を説明していただきました。

竹内 そのときに向こうは自治会がしっかりしているという話。

藤平 そうです。自治会がしっかりしていたところから回復した。「市の職員は本部を守るだけで何も動けません」ということをリアルに説明を受けましたけどね。

竹内 同じく防災のことですが、平成7年の阪神・淡路大震災、それから10年たってから、語り部になっている芦屋市の元部長さんに来ていただき、やはり阪神・淡路のときの市の対応と、そのときの、やっぱり市や消防団だけではとてもやれなくて自治会を中心として、とにかく地元がしっかり活動して随分大勢の命を救ったという話をしてもらいました。

それとの関連で言うと、東青梅5丁目が消防の関係で、東京防災隣組に認定されましたね。

藤平 東青梅5丁目はいろんなことで先駆的に活動されるんですよね。

池田 支会長、先ほど、藤平さんから自治会長と市の防災計画との絡みの話がありましたが、第八支会では平成27年度に防災計画の見直しをしましたね。この点についてお話をいただければありがたいです。

宮口 第八支会の防災計画に絡む動きですけど、特に防災士というのが認定されて、その防災計画の中に防災士の位置をはっきり位置づけをして、指導的な立場に立っていただくこと、そして、防災士の能力を発揮する場を求めたという点を見直しました。

それから、それぞれの自治会役員は年度ごとに変わっていきますけれども、「人が変わってもずっと続く防災計画を」という思いで、今、細かな見直しをしています。とにかく、公助というのはあまり期待できない状況があるので、第八支会では共助の部分でどのくらいまでできるかという可能性と方向性について検討しています。

藤平 いざ災害になったときに自治会長が市のどこに連絡をするかということ、自治会長の立場で明確になるような指針を出していただきたいですね。

屋代 今、自治会長が市のどこに連絡するかという話でしたが、私のときに青梅市に災害時に



第7代青梅市長 竹内俊夫氏



平成16年 中越地震 (小千谷)

「自治会が確認をすることに対する運動にも一緒に加わってくれ」と言ったらば、「それは地域の問題であって市には関係ありません」と言われちゃったのね。

最近、市報にも「自治会に入りましょう」というのを書くようになって、市も最近は非常に連携に積極的になってますね、取組み方がかつてはそうじゃなかったんですよ。自治会長連中、「市役所ふざけてる」って怒っていたんですよ。そういう時がありました。現実には随分変わってきたなというふうに思います。



元師岡町2丁目自治会長 屋代明男氏

池田 さっき藤平さんが話された小千谷市での研修の話では、「災害時に自治会がよく動いたところから回復した」ということで、市と自治会との連携が、やっぱり大事な視点になるでしょうね。

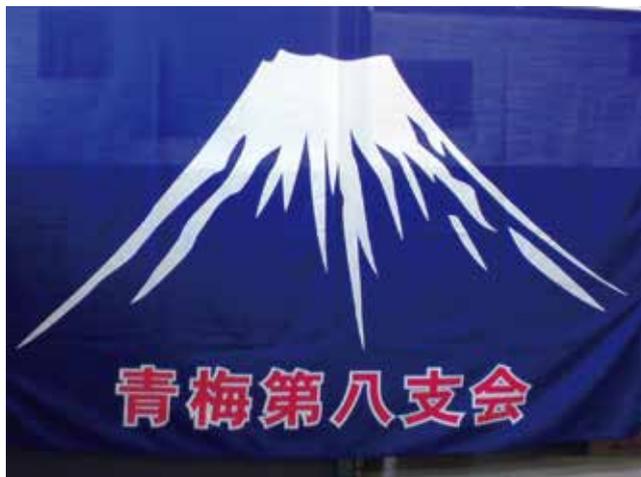
屋代 市と自治会との連携の例では、私が郡山市に行ったとき、郡山市は各自治会長にファックスを提供し、ファックスを利用した訓練を実施したそうです。それだけ、郡山市と自治会が密着してたんだよね。

池田 「各自治会において防災に関する情報が伝達された後、各自治会がどのように、地域住民に伝達し活動するかということを明確にする必要がある」という議論を第八支会では、今検討しているところです。

次に山崎さんいかがでしょうか。

支会旗の謎

山崎 私、自治会長を平成10、11、12、13年とやらせてもらって、最後の年が支会長でした。支会長として幾つかの課題がありました。21世紀の幕開けの年だということ。青梅市が市政50周年記念だということ。もう一つが自治会が1つ増えたことです。ハイホームというマンションに、平成10年に入会してもらったんです。入会の経過は行事には出られないが、自治会組織があるということで、みなさんの話題に出た防災なんかの関係で説得して入っていただいたんです。



また、21世紀の幕開けの年だから何か活動しようということで、5月の27日28日と新潟の瀬波温泉に研修視察に行きました。その時の各自治会の会長は先輩・同輩・後輩と一致して活力があり仲がよかったのです。

そういうわけで、私ね、研修視察の後ですけど提案したんですよ。「今、第八支会旗を作ろう」と。そして、とにかく安く作るということで。全員が満場一致で賛同しました。

支会旗作成の費用も、高くちゃまずいからね。予算は8万だということ。各自治会5,000円ずつ負担ということで。そうしたらそれも各16自治会賛成して、予備費から出すということになりました。

それではどんな支会旗にするかということで、各自治会長さんから支会旗案を募集したんです。そうしたら、みんな「わかんない」というわけだよ。「支会長の山ちゃんが言い出したんだから任せろよ」と私はその時に支会旗の図案を考えていたんですよ。第八支会で「八」だから富士山が日本一だから日本一の支会にしようということで……

池田 そうしたことなのですか。どうして支会旗のデザインが富士山かという理由を調べたのですけれどわからなかったのです。

山崎 あれは富士山なんですよ。

池田 日本一の支会にしようということで……

山崎 それで、第八支会の運動会が9月だったんですよ。その時に朝礼台に上って素晴らしいものがありますからということで、そこで第八支会旗を披露したんです。

池田 よくわかりました。だから「八」を富士山にかけて日本一の支会にしようと。平成というは何年ですか。

山崎 平成13年です。

池田 支会旗のなぞ1つが解けました。なぜ図

案が富士山なのかと書いていたんですけれども、よくわかりました。ありがとうございました。

山崎 支会旗、紺地に白抜きなんですよけど。あれを見ると、青梅市の「市」が抜けていると思います。「市」を書かなかったんです。

池田 それはなぜ。

山崎 これは、青梅の中の一番じゃないんだと。日本で一番になるんだと。第八支会旗を見てください。たぶん私の記憶では、青梅市じゃなくて「青梅第八支会」と書いてある。そのほうが字が大きくなるしね。そんなわけで昔話ですよ。

池田 いえいえ、よくわかりました。第八支会旗の2つ目の謎が解けました。ありがとうございました。

山崎 記念のものは、とにかくお金がかからないのが一番いいんですけど、かからなくてとにかく目立つもので収納が楽で、後の維持費がかからないということなんですよ。支会旗に決めたのはそんな訳ですよ。

池田 支会旗は大きく目立ちますね。立派なものをありがとうございました。

山崎 いやいや、それは私じゃなくて仲間が協力してやっていただいたことですからね。

池田 貴重な話をありがとうございました。

自治会加入のメリットとは

池田 伊藤さんいかがでしょうか。

伊藤 私は当時から、今もそう思っているんですけども、どうしたら自治会の人数が増やせるかなど。今年の2月に、立川市の大山団地前自治会長という方が青梅市民会館で講演をされているんですよ。大山団地は100%自治会加入だと聞いています。それはどういうシステムかということを知りたいです。

自治会に入っていないと資源回収をしてく



元師岡町1丁目自治会長 山崎一夫氏



元東青梅2丁目第2自治会長 伊藤敬司氏

れないという自治体があって、自治会員でないと缶だとかビンだとか新聞を回収してくれないというところもある。「自治会が集める資源も、自治会に入らずに出す資源も青梅市では金を払って回収しているんだったら、無駄じゃないか」と毎回資源回収の説明会で言っているんですけど、なかなか青梅市では聞いていただけないことがあって、その大山団地の例をぜひ1回でも聞いて、参考にできればしたいというのが私の考えです。この課題は、以前も、今でも抱えている課題なんで、ぜひ何かいい方法があれば学び、実践したいと思っています。

宮口 自治会連合会でも加入促進と、退会防止について検討しています。今も「すまいるカード」の事業を展開していますが加入促進の成果はあまり上がっていません。特に第八支会については、今、住民の方が7,753世帯お住まいですけど、加入者は3,496世帯で45%の加入率なんです。このように加入促進が進んでなくて、今伊藤さんが言われたように、一体、自治会に入って何かメリットがあるのかと言われるんですね。



屋代 入らない人はメリットということを言うね。

伊藤 地震等の災害時に、「非常時の回復は自治会単位で支援するとか、避難場所では自治会単位で支給する」と言うと、自治会という組織に加入しようかという形にはなるんだけど……

宮口 非常時の防災対応のことを言って「入ったほうがいいですよ」ということで。

伊藤 なかなかねえ。「青梅は岩盤が固いから地震は来ないよ」などの思惑があり、そういう意味で非常時の防災面で難しさがあるのですけどね。

屋代 うちの方の自治会でこんな例があります。ある人が市役所に相談に行ったんだって。「自治会を抜けた場合には何か不利なことはあるんですか」と言ったら、「特にそういうことはないです」と言ったらいいんですよ。だったら入っていてもしょうがないからその人は自治会を辞めちゃったんですよ。だからその辺の市の対応の仕方もあると思うんですよ。

山崎 そうじゃないね。それはもう「人」ですよ。メリットを言うほうがおかしい。自治会にはメリットはないよ。だけど、いろいろ交流ができたり、そういう心の問題ですよ。

池田 今回の熊本地震は、自治会に入っていない方々はおにぎりをもたらすのにもかなり時間がかかりましたね。入っていない方がいても行政は一人一人に平等に配布することはできかねます。やはり行政と自治会との連携が重要でしょうね。

伊藤 さっき宮口支会長が言われた、脱会させない一つの方法として、高齢になって組長もできないから辞めるという意見があるわけですよ。それを辞めさせないために、準会員みたいなをつくらうとしたんですよ。自治会だけで。正会員には組長までやれる。年寄りだけでも、例えば会費を400円のところを300円なり200円にして、ただの会員加入みたいな感じ。何かあったときにはみんなで一緒になって助け合うとかいうようなシステムを自治会だけで考えたんですけど、なかなかうまくいかないです。

池田 昨年度、多摩団地自治会では高齢の方々の脱会防止について臨時総会を開いて対応しました。ただ、会費は同じようにいただき、組長、副組長の免除規定が総会で通って、実際に自治会に戻ってきた人が平成27年度は5世帯、今年1世帯で合計6世帯戻ってきました。年をとられた方々は、「動けないけど協力したい。今まで自治会に長い間関わっているからお金の問題じゃない」という意見の方が多かったですね。

藤平 実際に役員できないから辞めるというケースが非常に多いと思います。自治会でそれをコントロールできるかという、役員選出は大体自治会の中の各組でやっているんですね。組によって雰囲気が全然違うんですよ。ある組は80歳以上は免除しようとか、そういう話し合いがうまくいく組と話し合いが全然うまくいかない組と。それに対してはもう手が出ない。組の雰囲気というのはそれぞれあるもんだから。

伊藤 もう一つは、お母さんは老人会を楽しみに、グラウンドゴルフやカラオケに出たいわけよ。ところが、せがれと嫁はもうそんな面倒くさいこと、隣組長の番が来たら嫌だから、お母さん辞めろよと足引っ張ってんだよね。親は残りたい、せがれ、嫁は面倒くさいから辞めたいという……。

山崎 結局若い人なんだよね。

原田 これから入ってくる方っていますよね。住宅とかマンションが建って。そのときに、確実に入ってもらえる仕組みを市だとか建築会社とか、そういう関わっているところとうまく協定を結んで、まず入ってもらえる仕組みをみんなで作ることが大事だと思うんですけどね。なかなか難しい話なんですけど、最初のきっかけですから。今度ここに住宅ができるよと決まったら、すぐに動けるような、そういう連携がうまく各自治会でも、第八支会全体でもとれると、一つの加入のきっかけにはなるかと思うんですよね。皆さんやっておられるところもあるかもしれませんが、いい方法ができていけば、みんなそれを共有してやっていくことも一つかなと思います。



元東青梅4丁目自治会長 原田健次氏

池田 支会長いかがですか。

宮口 今言われたように、若い人が入らないという話ですが、子供会がなくなっている自治会が多いんですよ。自治会連合会のほうでは、竹内市長さんのときも浜中市長さんにも、市の方で、例えば条例は難しいと思うんですけども、協定をつくっていただいて、自治会に加入するのが望ましいというようなことでやっていただけないかということはずっと一貫して主張しています。

浜中市長さんもその辺については「お互い様条例だ」なんて言っていて、多少動きがあるかなという感じがします。とにかく若い世代が自治会にまったく魅力を感じていないということで全体的に加入率が上がらない。それが一番ネックですね。いろいろ考えていますがなかなかうまくいきません。何か知恵をください。

子どもたちとともに

原田 私は霞台中学校の運営連絡協議会に入っているんですけど、学校と話をしていると、「それぞれの地域としっかり連携を取っていきたい」という話があります。そこには当然PTAの方も参加している。学校がそういう方針を出してくれているから、そこをうまく活用しながら今自治会に入っていない方にもっと入ってもらおう。そういう推進の仕方もあるのではないかなと思います。その中にうまく取り込めないかなと。自分も学校運営連絡協議会に入っているからそれを少し考えなきゃいけないなと思っていますけどね。口だけになってはいけないので、協力し合いますよと言っているんだけど、実態はなかなか。

宮口 原田さんと同じ霞台中の学校運営連絡協議会に出ています。霞台小にも今年から入って



霞台中・吹上中吹奏楽部による演奏

います。協議会では学校から「地域との連携」ということを盛んに言われます。学校から見た地域というのは非常に漠然としているんですよね。要するに学校の周囲の、どこまでの範囲かわからないです。

学校と地域との連携の例として、昨年度の第八支会の防災訓練では、一中、泉中、霞台中、吹上中の中学生60人くらいが参加して実施しました。避難所の設営だの段ボールで仕切りをつくったり、炊き出しをしたりという活動を行いました。

また、5月に、第八支会に関する小中学校の校長先生方8名の方にお集まりいただきまして、50周年の絡みで「ささえあいフェスティバル」があるから児童・生徒の作品の提供をお願いしたいということと、ますます連携を深めていきたいということで、話し合いをしました。学校のほうもぜひ声をかけてくださいと熱心で積極的な感じでした。だから、学校と地域との連携は今原田さんが話されたように、もう少し具体的な手立てを考えていけば、もっともっと連携は深まっていくと思っています。

池田 自治会の若い会員を増やすこと、今まで自治会で尽力されてきた高齢の会員の方々の脱会を防ぐということは大事なことなので、ご意見をいただければと思います。

竹内 私の在任中にどんどん加入率が下がって行って、本当にじくじたる思いがありました。先ほどメリットの話がありましたけれども、そのメリットというのはなかなか難しいんですけども、要は自治会の活動を活発に、いい内容の活動をしっかりやるということがメリットにつながると思うんですよ。

今、子供会の云々という話が出ましたけれども、昔みたいに子供会がないんで、学校との連携で親を通じて自治会にというようなこともあろうかと思うので、学校には「教育は学校だけじゃなくて、学校と保護者と、それから地域ですよ」ということを我々も学校によく言っています。今、先生方は大変で、特に管理職は大変だと思うんですが、地域の会合なんかに随分出てきていると思います。それから子供たちにいろいろな地域の行事に参加してもらって、例えば運動会だとか盆踊りにも参加してもらったりという取り組みは、子供を地域での社会性を育てるといえるのか、育ててもらふ必要があると思います。

私も16年間お付き合いして地域行事に参加して参りました。第八支会の運動会など、本当に子供さんが大勢出ているし、全体的によそに比べて若い人が大勢出て活動しているので、より充実した楽しい運動会になっています。

それから、防災についても「自治会に入っていないといざというときに大変だよ」ということをいろんな防災訓練などを通じて認識してもらおうとか、いろいろな活動をしっかりやることによって、メリットを感じてもらえるようにすることが大切です。口であだこう言うだけではなかなか自治会の活動についてこないと思うので、実際の活動を通じて、入らないと損というか、困るといえるのか、そう



青少対霞川清掃

いうところをわかってもらえるようなことが大事ななと思っています。

それと、青梅市自治会連合会メンバーのいろんな支会で新年会をやっていますけれども、第八支会は非常に大勢の人が参加して、にぎやかに和やかにやっておられるので、実際の活動も進んでいるかなという感じはしました。

池田 竹内前市長さんがお話しされた、自治会に加入してないということは、子供の社会性に影響してくると思うんですね。自治会に入らないということは関わりがそれだけ狭くなることですので、このあたりについても話していただければと思います。

原田 なぜ、子供会がなくなってしまうかということ、みんな何となくわかっているけれども、高学年になると、特にお母さん方に関わる部分が多いんでしょうけれども、役員が回ってくる。一方では子供たちはスポーツもやりたいとか、自治会でやるいろいろな行事とバッティングするようなことも多いかなと。その辺をみんなもうちょっと考えて、入れば楽しいよというのを——PTAですよ。そこはあんまり外れている人はなくて、大体やっていますよね。PTAには入っていると思うんです。だからPTAを活用すればいいと……

山崎 子供も忙しいんですね。塾があったりクラブに入っているんですよ。私も青梅に孫が3人いるんですけど、小学生が。やっぱり3人いて、2年と3年と5年かな、3人サッカーやっているんですよ。だから母親も父親も忙しいね。

池田 原田さんがおっしゃった、「入ったら楽しい」ということが大切ですね。入らないといつまでも関わらないですもんね。

山崎 楽しんでやっていますよ。

藤平 私が経験したのは、自治会に入らなければ子供会に入っちゃいけないというのを自治会側から指示したことがあるんですよ。自治会に入らないお母さんというのは、大体母子家庭だとか、入りたくても入れないような家庭の方が多いんですよ。本当は子供会に入れてあげなきゃいけない子供を自治会側が拒絶するという現象がありました。

私のときになってから、それをやめろと子供会に言ったことがありました。すべての子供を入れなさいと。自治会から補助金をもらっているものだから、「自治会員じゃない子供に何で出すんだ」というような声が上がって、それで拒絶するみたいな意見が出るんですよ。非常に具合が悪いことだと思いますね。

池田 様々なお話いただきましてありがとうございます。一度休憩を取りまして、後段に入ってまいります。

後段では、第八支会のこれから進むべき方向性ということで、先ほど話題に出ました自治会加入促進・脱会防止、防災などの対応などをもとに、第八支会の将来に向けた話をいただきたく存じます。よろしく願いいたします。

午後7時05分 休憩

午後7時10分 再開



座談会を聞く自治会長の皆さん

防災は最重要課題

池田 後段に入ります。第八支会のこれからの発展のために、皆様からお話をいただきたいと思ひます。

最初に、原田さんからこれからの第八支会の進むべき方向性ということでお話をいただきたいと思ひます。

原田 今、高齢化社会という時代になったので、大きな対応は災害対応ですよね。それからやっぱり自分もそうですけど年寄りの方が増えてきて、そういう人に対してどのくらい真摯に向き合っただ対応できるか。実態は市との協力が重要だと思ひんですけど、どちらかというど、何となく市から自治会に对应を投げられているようなイメージもゼロじゃない。このことが大きな課題だと思ひますよね。それが先ほどあつた自治会に入っているか入っていないかでまた各自自治会の対応の仕方が、自治会に入っていない人に同じように助けるのかというよな——本当は人間としてはよくないかわからないんですけど、逆に人間だからそういう思ひが結構ありますよね。まずその辺の、いかに非常時に防災の対応をするためにみんながどのように協力するかということだと思ひますよね。

今、第八支会でもやっておられるようですけれども、中学生くらいの若い人というのは、もうそれなりの防災に対しての感受性を持ってますから、平素から中学生とも連携をとっていないとなかなか非常時に対応できないので、災害のときだけ手伝えって言ったって、そうはうまくいかないですね。これは、これからの大きな課題の一つだと思ひますよね。

池田 ちょうど今原田さんの話題に出ました、防災と自治会の加入のことと、さっき支会長が話されたように、第八支会の中学生が防災訓練で活動したということは、4月の熊本地震、東日本大地震での中学生の活動とまったく同じですね。支会長、中学生はよくやりましたね。

宮口 やったね。



青梅市防災訓練（第四小学校）・非常持出袋

池田 防災、自治会と子供たちとの絡みで、話をいただければありがたいです。

屋代 自治会がだんだん縮小してきているんだよね。現在の教育というのがみんな個人中心になっちゃって、連帯感というものを持っていないから、余計自治会への影響が大きいですよね。奉仕するというのが、すぐボランティア、ボランティアと言っているけど、それは、一部の人間であつて、全体的なそういう精神はないと思ひます。

それで私は思ひますが、防災訓練というのは、消火器やって消すだけじゃなくて、災害があつた場合には自主防災組織でもって連絡するんですよというのをやったらどうかと思ひます。自治会に入らなくちゃできませんよと明確にして、非常時にはこういうふう避難し



中学生による炊き出し訓練（支会防災訓練）

池田 屋代さんが話されたことは、防災訓練が、実際に災害が起こったときに対応できる基本だという話ですね。

屋代 そうすれば意識が変わってくるのではないかと。私は總會のときに「自治会というものは、無形のものであって、普段やっていることが災害があったときの訓練だ」とよく言うんです。「みんなが顔を知らなくちゃどうしていいかわからないだろう」ということをよく言うんですよ。だから損とか得の問題じゃなくて、無形のものだということをよく訴えているんですけどね。なかなか理解を得られないんですけどね。

池田 そうですね。普段の生活からすると自治会というのは少し大変（負荷）なことをやっているんですよ。

屋代 そうなんです。だからそういう意味で今度は実際にそういう組織的な動きができるかどうかというものを考える必要があると私は思うんです。

池田 屋代さんが言われることは、自治会が普段の活動において負荷がある活動をやっていないと、いざという場合にできないということですね。

屋代 そうなんです。今、各学校は避難場所に指定されていますが、住民の方々は、実際どこへ避難していいかわからないよね。そういうものをはっきりさせていったときに、非常時に何が課題として出てくるかということがわかると思うんですよ。

池田 第八支会の昨年の防災訓練では、先ほどの話のように中学生が非常時での支援活動を行いました。また、避難場所の東青梅市民センターに集まるときに家族の安否確認をしたのです。このあたりについて支会長から話をいただきたいと思います。

宮口 安否確認をしました。防災訓練の中身をちょっと吟味したほうがいいということと、例えば今考えているのは、夜間訓練。いつ災害が起こるかわからないので、夜間に避難をして、避難所まで来て、安否確認を行うこともあるのかなど。

その他にもっと大きな取り組みは、伊藤さんの絡みの話なんですけれども、要援護者の支援制度。結局、青梅市から名簿をいただいても金庫の中に眠っている状態なんですけど、最終的には各自治会の対応になっちゃうんですね。うちの自治会の場合なんかは、要援護者の中で自治会に入っていない人のほうが多いんですよ。自治会加入者に対しては民生委員さんとか消防団とかいろいろ手分けしながら声掛けをしたりするという方向にしているんですけど



中学生による避難所設営訓練（支会防災訓練）

れども、それ以外の方についてはまったく手つかずの状態なんですね。その辺のところ伊藤さんどうですかね、現状は。

伊藤 現状は、民生委員1人で地区の多くのお年寄りの対応をしています。自治会に入ってない人を面倒見ろと言われてたって、名前もわからなきゃ、どこに住んでいるか、家族構成もわからないわけですよ。民生委員はいくら資料を持っていたって、1人で何人面倒見られるのか。自分の家族をまず第一に考えるでしょ。その先にどれほどパワーを民生委員が出せるかということ、難しい問題だと思います。リストや資料がいくらあったって、足しにはならないですよ。

だから、私の自治会で言うと、やっぱり自治会長は地区防災委員長になるんだと。副会長はその補佐をする副委員長になるんだと。体育部長は何やると割り振りを決めちゃったわけ



池田副支会長・宮口支会長

ですよ、自治会の組織の中で。広報は環境美化のだれかがやるとかね。それを補佐するのはだれがやるという、その組織と防災対策をリンクさせたんですよ。そこから始まって、去年初めて防災訓練という形で「炊き出し」をやったんですよ。そしたら金がかかっちゃうから、今年の防災訓練は「持ち寄り」でやろうと。このような改善をして第2回防災訓練を今年やるんですけど、このように、組織づくりと防災の訓練というのを合わせて進めたり、あるいは避難できない歩けないお年寄りのためにリヤカーを用意

したりとか、こういう活動をしています。

このような活動を通して、「何かあったときにはこういう体制で動こうね」ということを自治会としては行っているけど、東5さん（東青梅5丁目自治会）のように、見守りとか要支援者に対するプロジェクト——例えば隣の人が様子を見て安否確認をしたり、何かあったときは連絡網のトップに言うとか、そういう組織を作ろうとしたけどなかなかこれが難しい。

池田 屋代さんが話されたように、「日ごろの生活から自治会というのはちょっと大変なところ（負荷）の活動を行う」というところで、東青梅2丁目2の伊藤さんの自治会では努力された。しかし、東5の取組みを行うことは難しいということでした。

東5の現自治会長廣岡さんが座談会を拝聴しています。廣岡さん座談会に出てきて仲間に入ってください。東5の実態をお話してください。

廣岡 そうですね。民生委員、または自治会の役員が中心となりまして、ボランティアとして要支援者、要援護者をグループに分けまして、災害があった場合は、まずどのようにするかということを生委員の方から名前を落としてもらいまして、一人世帯、夫婦、そういうような家庭をポイントポイントで落とさせていただきます。その方たちを重点的に先に救出しようじゃないかという、そういう訓練を毎年9月に行っています。

各地域に分かれた副会長を頭にして、ボランティアの方をまず招集して、1区はだれとだれに行ってくれ、2区はだれとだれ、とい



うことでメモを渡すんです。そこへ行って、「いかがですかと」という声掛けをして安否確認をしています。

原田 対象になる方は自治会員ですか、自治会関係ないんですか。

廣岡 対象になっているのは、自治会関係なく全世帯です。

原田 自治会に入っていない人も対象になるんですか。

廣岡 対象になります。それで極力加入をお勧めしています。中には入ってくれる方もいるんですけど、どうしても「私はいいわ」という方もいます。

そうは言っても、やはり人命が一番先ですから、まず助けることが先なので対象にしています。自治会に車いすが3台あります。動けない方にはそれを持っていく。民生委員の方がそれを把握していて、うちには民生委員の方が2人います。一番重症な方をいつも把握されていて、その方を先に救出するという方式をとっております。一応、早道公園の会館の前へ誘導しています。声掛けをして「私は歩いて行きますから」という方はそのまま避難していただいています。また、中学生も含めて自治会の役員、皆さん顔写真入りのプレートを作って活動しています。

藤平 東5さんは昔から積極的な自治会長がいて、その雰囲気はずっと続いているんですよね。何でも青梅市で最初にスタートするのが東5さんなんですね。

廣岡 65歳以上の高齢者と「子供会を大事にしよう」ということで力を入れてます。民生委員の方は大変だと思いますよね。一人で何百世帯を持っていますのでね。

池田 後段の座談は原田さんの防災の話から始まり、次に屋代さんの「自治会活動は個人の普段の生活よりも負荷を受けた対応をする活動」。そして伊藤さんの「負荷を持った新しい活動の実践の困難さ」から、東5の「積極的な活動による実践」につながりました。

東5のやり方で何か御質問などはございませんか。

山崎 すばらしいことですね。自治会活動の先端を行っているよ。やっぱり先輩もいいし先輩の指導を受けた人も気合いが入っているね。

竹内 私も同じジャンルになるんですけども、今の自然災害対応プラス安全ということでは、防犯とか交通安全とか、そっちのほうもやはり自治会でいろいろやることが多いと思うので、そういうことをしっかりやるのが、また先ほどから言っている加入率向上にもつながられると思うので、そこをぜひ第八支会での推進を。

廣岡 防犯面で東青梅5丁目でも巡回パトロールを行っているのですが、年齢が上がって、やはり活動できない方が多くなっています。

竹内 東5の高齢化が激しいという話は前から聞いています。

廣岡 パトロールに来られるのはやっぱり役員さんと、組長さんで若い人が出て来るかなというのが現状ですよ。



東青梅5丁目廣岡自治会長



東青梅5丁目防災ボランティア訓練

伊藤 八支会の防犯パトロールののぼり旗を有効に私どもは使っています。また、子供の安全を守る横断中の旗ね。あれビニールで冬場は凍ってパリパリして切れちゃうね。

池田 定期的に交換、補充等を考えなくちゃいけないということですね。

伊藤 ぜひお願いしたいと。

池田 わかりました。どうもありがとうございました。

池田 廣岡会長ありがとうございました。

自治会長は大変だけど楽しい

池田 これまでの座談で、原田さんから屋代さん、伊藤さん、そして現役の東5の廣岡会長からお話をいただきました。後段の座談では「第八支会自治会はやはり普段の活動から少し負荷を持って活動に取り組んでいくことが大切」という話題が出ています。

今の話題の延長線上で、まだ時間もありますので、何かお話しただけませんかでしょうか。

伊藤 東青梅2丁目第2の自治会も、さっき話したように少ない所帯で、会員数は実際は90くらいかな。去年から、東青梅2丁目地区ということで、要するに楽しみを増やそうということで、東青梅2丁目第1自治会とグリーンサイド東青梅自治会とハイホーム東青梅自治会とでグラウンドゴルフの大会をやっているんですよ。東青梅2丁目地区の催しとして。

城前公園で11月28日にグラウンドゴルフ大会をやって、東青梅2丁目第2の自治会館で打ち上げをしてみんなで成績を発表したり、商品を出したりして。1つの自治会では何かの行事をするにしても人数が少ないので、第八支会の大会に出ることの他に地域の連携を強めていこうというこのような活動も今年で2年目になります。このような取り組みをしています。

宮口 自治会の合併、例えば前から話題にずっと出ているのが多摩団地自治会と旭ヶ丘団地自治会が合同体になるとか、それから東青梅2丁目第1と東青梅2丁目第2が一緒になるとか、バームハイツ河辺自治会は師岡町2丁目自治会に入るとか、そういう話題はずっと出ているんですけど、なかなか先に進まない。そういう話の中で、今の伊藤さんの話は自治会の合併を進めていく起爆剤になるのかな。

伊藤 それは難しいと思っています。自治会館を持っているというのは、つぶすのは大変なんですよ、実は。建物をつぶすだけで今の預金高を全部かけないとつぶれない。預金のほうが少ないから、財産があるとなかなか「はいそうですか」と合併は難しいんですけども。

池田 ありがとうございました。

これまでの座談の中で自治会活動を行う時に大切なことは「楽しさ」という面がありますね。自治会の活動で、屋代さんの話から考えますと、普段の活動よりもちょっと負荷をかける活動ということは、仕事だと思いつくなるのですが、先ほどの山崎さんのお話で、盛り上がって第八支会旗をつくる、5,000円を自治会で工夫して出して作製すること、その活動の根底に「楽しさ」があるのではと思うんですけども。この点についてはいかがでしょう。

近接と補完の原理



ものの考え方の3原則



山崎 そうですね。なるだけ人の言うことをよく聞いてあげることだね。そうするとわからないようでもわかってきますから。だからやっぱりどっちかという聞き上手になるということが、割と人間関係をうまくするので、私はそういうような方針でずっとやってきましたね。やっぱり話せばわかるんですよ。これが大事です。

それで、確かに自治会は今、余計なことをやるって言うんですけど、やっぱり余計なことをやって喜んでいただければ、やっぱりやった甲斐がありますからね。そういったものが自分自身の報酬になると思いますよ。だから、目に見えないけど、そういったところで精神的なゆとりができたりして、仲間も増えるし、賛同も得られるし、そういうことでやっていくのがいいかなと思って。こういうことをまず基本にして、人と触れ合っていくのいいかなと思っております。



根ヶ布2丁目地域の安全を守る会「朝の見守り活動」

池田 屋代さんが話された、「ちょっと大変なところ」も伊藤さんが話された「人と触れ合っていく」ということで「余計なことをやって喜んでいただく」ということにつながるのではないのでしょうか。

座談会の残り時間もあと10分余りとなりました。これまでの座談をもとに、第八支会現職自治会長への提言をご指導いただければと思います。

藤平 自治会長になったときに、私は自治会長に何が一番大事だろうかと考えたことがあるんですけども、やっぱり地域の安全、防災、とにかく住民の安全を守るというのがやっぱり自治会長の最大の使命だろうなと。その上で親睦を図っていくということだろうと思うんですけども、先ほどからいろいろとお話が出ていますけれども、普段は自治会長の職というのは、いわゆる地域の親睦を図ることのほうがメインになっちゃうんですね。いわゆる娯乐的、親睦を図ることのほうが作業の大多数になっちゃうんですね。だから、先ほど屋代さんからもご意見がありましたけれども、自治会長の使命というものを、皆さんがはっきりと握った上で行動されると、もう少し地域の安全を守ることの重みが出てくると思うんですね。

池田 ありがとうございます。屋代さんいかがでしょうか。

屋代 私は自治会長になったときに、えらいものになったなと思って、要するに頑張るぞという気持ちを持ったんですよ。ところが、ある本を読んだときに、「頑張るということは能力と体力と知力がなければできないんだ」と、その能力がない人に頑張れと言ったって無理。

私、その3つが正直言ってないものだから、じゃどうするか。いいや「楽しもう」と思ったんですよ。そしたら、ある人から自治会長って「楽しいのかい」と言われたことがあったんだけど、そして気を楽しんで、要するにみんなの意見を聞いた中でまとめればいいんだという考えに変えたら気が楽になったんです。

また、自治会長というものは、権力があるようでなくて、ないようであるんですよ。非常に矛盾しているのです。で



第八支会青色パトロール

すから、いろんなことを言ってるけどそれだけの権限がないから、とにかくお願いごとなんですよね。自治会長の辛いところは。

池田 山崎さんよろしくお願いします。

山崎 私は違った角度で言いますと、自治会長を受けたときに、やっぱり一番はおかみさんですよ、女房。随分手伝ってもらったり、いろんな細かいことをやったり。何かの催し物は大体三役の連れ合いが行くんですよね。そういうこともずっとやって、本当に助かりましたね。

それで、最後のときの平成13年の3月17日、「自治会長おかみさんの会」というのを作りました。感謝を込めて、口だけじゃなくて実際にやりました。そういうわけで、ちょっと切り口が違うんですけど、だから皆さんね、やっぱり連れ合いも大変だと思います。ですから、仲よくやっていい自治会長をやってください。

伊藤 私も自治会長をやったときは確にかみさんにも迷惑かけたし、またみんなの協力があったと思っています。ただ、その後に2回代行でやっているんですよね。自治会長を。でも私自身は辛い思いというよりも、みんなの助けがあって、楽しく自治会長ができたなと思っています。やっぱり皆さんが言うように、ある意味楽しんで、辛いな、大変だなと思うと、どんな役でも大変になる、その役で自分が一つ勉強になったなと、今もそういうふうな気持ちでやらせていただいています。

池田 原田さんお願いします。

原田 伊藤さんの話をつないで話すと、自治会長は自治会長で大変なこともありますけど、これまで知らなかった第八支会の皆さんと付き合いができて、ひと回り自分も何となく大きくなったような気もしました。それでいいじゃないかという形で自治会長時代は終わったような気がします。



青梅女性防火防災の会「避難訓練風景」

あと一つ、第八支会、女性の方がどのくらい各自治会でご活躍されているのか。

女性に活動してもらう、この点を少し掘り下げるといふか、みんなで女性の活躍を支えていくと活性化するという気がします。そういう自分たちは婦人会がなくなったりしているので、あんまり偉そうなことを言えないんですけど、それを何か考えると少しは別の意味で協力ができるかもしれないという思いはあります。

池田 ありがとうございます。

今までの座談を通して、自治会の防災、自治会員の減少の中の取り組みなど、様々な話題が出されました。竹内前市長さんに、皆さんの話を伺った感想をお話いただければありがたいです。よろしくお願いします。

竹内 このたびは50周年ということでおめでとうございます。

私も平成11年の11月末から16年間いろいろお世話になったわけですがけれども、第八支会の皆さんとも第八支会50年の約3分の1近くをお付き合いさせていただいています。今日、いろいろお話がありましたように、加入率が下がってきているという、これはもう青梅市全体の話でもあるんですけれども、その中で第八支会は先ほど申しましたけれども、いろんな行事を非常に活発にやられておりますし、話が出ました東5なんかいろんな取り組みも先頭を切って取り組んでいただいて成果を上げてきているというようなことで、本当に皆さんのご尽力に敬意を表したいと思っています。

今いろいろお話がありましたけども、やはり自治会の活動、全員が入って、その人たちがうまく活動できればいいんですけれども、そうは言っても、やはり役員がしっかり働くというか、役割を果たしてまとめていくことがないとなかなか難しいのかなと思いました。そういう意味で第八支会では役員の方々がすごく活躍されてきたと受け止めました。

全体が高齢化している中で、前と同じやり方はなかなかできないのかなと感じてまして、さらに高齢化が進みますので、その中での自治会のあり方をしっかり検討し、対応していくことが大事なのかなと感じています。

もちろん、安全・安心のところが一番大事で、一番肝心なところは自助・共助でやらなければいけない。公助はやりたくてもできないのが実態だと思いますので、やっぱり自助・共助のところでしたら安全・安心を守っていくというようなことで、その中心がやはり自治会だと思いますので、特に大変になる超高齢社会の中で自治会がその機能を発揮されていくと思います。

この自治会の安全・安心に対する取組が「楽しく感じなきゃいけない」感じられるように充実した活動をやるということが、若い人の理解もいただいて自治会活動が充実していくことにつながるんだろうと思います。

ということで、若い人にもちゃんと入っていただけるような取り組み、そしてこの超高齢社会での自治会、今までの延長だけじゃなくて、ここでさらに——いろいろ検討されているところですけども、第八支会が先頭に立ってそういった取り組みをやっていただけるとありがたいなと感じました。

池田 ありがとうございます。

それでは支会長、お礼の言葉をお願いします。

宮口 今日の2時間の座談会の中で、50周年の第八支会の今までの流れ、これからの課題というのが非常に明確になってきたと受け止めます。ありがとうございました。

竹内前市長が言われたように、高齢化に合った自治会の運営の在り方が大切であるということ。基本的には先ほど言われたように、安全・安心が基本があって、その上で親睦があると。加入促進とか退会防止も含めながらその辺を考えていかなきゃいけないと。今回の座談会で、進むべき方向が明確になりました。第八支会自治会長が一つとなり、「高齢化にあった自治会の運営の在り方」その王道を力を合わせて進みながら、あわせて50周年事業を進めて参ります。

本日はありがとうございました。

池田 皆様のお陰をもちまして、宮口支会長が話されたように、方向が見えたことに感謝申し上げます。

終わりに、野崎会計より閉会の言葉をいただきます。

野崎 本日は、竹内前市長をはじめ、諸先輩方、本当にありがとうございました。過去の経過とこれから我々に対する大きな期待と課題、これから宮口支会長を中心に頑張っていきますので、ぜひ助言と指導をお願いいたします。

きょうは長時間お疲れさまでした。ありがとうございました。

午後8時00分 終了



みんなで参加する自治会活動「第八支会市民運動会」

5 第八支会16自治会長からのメッセージ



平成28年6月7日
第八支会平成28年度16自治会長
東青梅市民センターにて

東青梅4丁目 井上 教之	東青梅5丁目 廣岡 修	師岡町1丁目 高野 惣一	根ヶ布 小澤 佑一	東青梅6丁目 高橋 誠	バームハイツ河辺 塩島 栄	東青梅1丁目 村木 徳昭	旭ヶ丘団地 小野 憲治	ハイホーム東青梅 猪 憲一	グリーンサイド東青梅 杉藤 哲郎
東青梅3丁目 井上 一郎	師岡町2丁目 野崎 康嗣 (会計)	多摩団地 池田 政次 (副支会長)	師岡町3・4丁目 宮口 泉 (支会長)	東青梅2丁目第2 小山 豊 (副支会長)	東青梅2丁目第1 武藤 廣司				

高齢化社会の中での防災活動

東青梅1丁目自治会長 村木 徳 昭

私たちの東青梅1丁目自治会は、役員のほとんどが、マンションの若い方々中心で活動をしています。日中災害が発生した場合は、ほとんどの人が仕事で市外に行っており、なかなか連絡が取れない状況にあります。東日本大震災の時には、私自身、自宅に戻れず大変でした。これらの経験と各地での被災状況を見て、自分たちの自治会での防災について考えてみました。自治会では年4回の自治会役員会及び隣組長会議の中で防災について話し合いをしましたが、具体的な対策が得られない状況でした。

次に、市の防災課職員から災害時要支援者に対する説明を受け、自治会長と副自治会長から対象者がいる隣組長に見守りをお願いしました。また、自治会長と副自治会長で、要支援者宅を訪問し現状の確認を行いました。さらに、定期総会誌に消火栓および消火栓器具箱の配置図を記入しました。

今後の防災の取組みは、第八支会の防災訓練に参加し、災害時の避難所開設など防災意識の向上に努めたいと考えています。

また、高齢者に対しての災害時の対応を充実させていきたいと考えています。

東青梅2丁目第1自治会について

東青梅2丁目第1自治会長 武藤 廣 司

東青梅2丁目第1自治会は会員90名程の自治会です。

当、東青梅2丁目第1自治会は歴史もあり50年は経過していると思われ、また地域としては東青梅駅北口に接し市街地であり住民の流入は少なく比較的昔からこの地域に住んでいた人達が大半を占めています。自治会の雰囲気としてはお稲荷さんを囲む昔ながらの集まりの感じであります。従って会員の高齢化が進み、①自治会役員の改選期には役員適齢期の会員があまりにも少ないうえにそれ以外の会員も自治会役員経験者が多く新役員の選出に大変苦労していて自治会組織の維持に困難しております。②高年齢者に対する見守りの取組みを自治会としての方策を練らねばならないと考えています。

①に関しては地区内の未加入者（マンション他）を勧誘し自治会の加入者を増やすこと。

②に関しては高年齢者の健康維持、災害時の対応策を民生委員、長寿会と一緒に新しい行事（例・グラウンドゴルフ、防災訓練等）を企画実施すること。

以上の2点について取組中ではあるが会員の自治会活動により一層の参加意識の高揚また自治会の必要性を啓発し隣接する自治会とも協力しあい自治会を活気あるものになりたいと考えています。

自治会長として

東青梅2丁目第2自治会長 小 山 豊

7月「上を向いて歩こう」で著名な作詞家永六輔さんが他界した。悲しみを堪え涙がこぼれないように上を向いた歌詞は、昭和生まれの人は脳裏に焼付いている事だろう。日本の古き良き時代を象徴する名曲であった。戦後の復興を経て手と手を携え、共助意識を持ち喜怒哀楽を共有していた時代、安心、安全な暮らしを求めて人が「ひと」らしく豊かな心を持ち「お互い様」が町のあちこちにありました。暮らす事が不便であった時代だったからこそ、温かみのある地域コミュニティー（自治会）が必要とされた。

50年前には想像すらできなかった携帯電話などの急激な情報機器の発展、24時間営業のストアや飲食店など便利な社会は、何時しか共助意識を希薄なものにしてしまった。個人で暮らしていく事が難しい時代から個人で暮らす事が快適な時代へと変化したのです。現在、高齢化が進み各自治会の問題点といえば、会員数の減少、役員がいない、組長になりたくない、行事への参加ができない等、明確な回答が出されている。ならば、地域コミュニティーの代表である自治会の意義、組織、仕組みも再構築する必要があるのではないのでしょうか？例えば、防犯・防災に集中した隣組組織の強化と町内自治会の統合。「隣に誰が暮らしているか解らない！」非常に恐ろしい事です。町内自治会という柵が、無関心世帯の増幅を助長しているのです。町内は快適に暮らす場所、面倒臭いお付き合いがある場所では無い。ならば、防犯・防災に特化した全世帯加盟の隣組を徹底して組織するのはどうだろう。そして、隣組組織の集合体を町内班（現在の町内自治会）として、町内班の集合体を第八支会自治会としたらどうだろう。町内自治会で行っていた事業は全て第八支会自治会で統一して行ない、町内自治会（町内班）の負担をなくしてしまう。統合された自治会の中で慣習として行われている事業を時代に即した事業へ見直し、行政からのトップダウン組織から隣組組織強化のボトムアップ組織へ変えて行く事が、自分の暮らす地域へ平成流の共助意識を持つ事に繋がり、自治会への加入意識が高まるのでは？

自治会長としての取り組み

東青梅3丁目自治会長 井 上 一 郎

1、文化、宝について思うこと

世界文化遺産、国宝とか大きな文化、宝も勿論大事なものが身のまわりには小さな文化、宝がいっぱいある。例えばかって正月には近所の子供達でたこ揚げ、羽根つき、カルタとりと情緒ある遊びをしたものである。これらは立派な小さな文化であり子供のころの思い出として残る宝と思う。

2、人と人のふれあい、交流について思うこと

昔は家族内の交流だけでなく近所の子供同士の交流は勿論、おじさん、おばさん達との交流があった。例えば夏になると道に出した縁台でおじさんと将棋を指したり昔ばなしを聞かせて貰ったり。あばさんには小さいころにはやんちゃだったけどいい子になったねとほめられたり。物が豊かになると同時に物中心による小さな文化の消滅、個人主義、核家族化等によるいろいろなジャンルの人とのふれあい交流の消滅が今の世の中と思う。

そこで小生は「小さな文化」を知ってもらうきっかけ作りと「幼と老のふれあい」の心温まる楽しさを味わって貰う場を作りたいと思い、手始めに来年正月に子ども会と老人会で「羽根つき」と「カルタとり」のイベントを企画することにした。

老人達が培って来た伝統ある、世界に誇れる日本の情緒ある小さな（小生は大きなと思っている）文化を知り継承することの大切さ、いろいろな人との交流による心のふれあいの楽しさを味わって貰うきっかけになる事を願って。

東4自治会の防災活動について

東青梅4丁目自治会長 井上教之

一戸建、アパート、マンションで850世帯以上の方が住んでいますが、自治会加入世帯は約400世帯という地域です。高齢者も多く防災についてあまり関心がなく、避難所も知らない人が多いようです。そのような地域で、災害発生時に自力で避難行動が行えない高齢者や障害のある人・乳幼児のいる人達の安否確認や避難誘導をどのようにしたら良いのか、自治会員・非自治会員の区別なくどのように助け合えるのかを考え、そのための支援体制が必要となります。

そのためには、隣近所で住民の確認が取れる登録制度のようなものを検討していけると良いと考えていますが、まずは自治会員の中でその一歩を進めていければと思います。支援の必要な人がどこにいて、どのような助けが必要か、そしてその助けを誰が行うかという問題もあります。東4地区は第八支会の中でも高齢者率が高く、現在の自治会役員も若い人がいないため、災害の時に助け合うことが出来ないのが問題ですが、これは災害時に地元にいるであろう小・中学生達の若い力が得られたらと思います。そのためにも地域で防災訓練を行い、その時には小・中学生及び保護者の方達の参加をお願いし、自治会の人達も含めた地域全体の人達で災害時のお互いに助け合うという気持ちを持ってもらえるようになると思います。

自治会員・非自治会員を越えて協力できる防災の組織を持つ地域を目指した一歩を踏み出して行きたいと思います。

自治会長としての取り組み

東青梅5丁目自治会長 廣岡 修

「自治会加入者の減少に考えさせられる」

どこの地域でも、自治会加入者の減少傾向にある自治会は、当東青梅5丁目自治会に始まった問題ではなく、各自治会で深刻な事態であると考えます。どのようにして「未加入者に理解を求めて、加入をして頂くことが出来るか」と言うことが、当面の課題であると思います。東5自治会で推進している、各イベントの中でも、未加入者に対して積極的に声掛けを実施してきているが、一部成果もありますが全体的には、成果が表れないのが現状であります。東5自治会も世代交代と高齢化が進むにつれて、自治会としての重要性が見直される環境作りと、如何にして加入して貰うかのPRを具体的に考えていくことが重要であると思います。

また、子供会の行事に自治会としても積極的に参加してきているが、父母の皆さんに理解をされていない面があるのか…。今後も、子供会の行事に自治会役員自ら積極的に参加する活動を通じて、未加入者に対して理解を求めて行きたい。

過去の震災時に自治会としての体験を経験した代表者を招き「講話」して貰う等の案や、大山団地自治会加入率100%に至った経緯などの話を聞くことにより未加入者を取り入れ実践して行くことも良いのではないのでしょうか。

更に、自治体にどのようにして働きをかけて協力をして貰うか。行政と自治会との連携が必要であることも重要な点ではないかと思えます。

自治会活動は「あいさつ」から

東青梅6丁目自治会会長 高橋 誠

第八支会が産声をあげて50年を迎えることになり心よりお祝い申し上げます。

さて私が子供の頃、もちろんまだ第八支会が存続してないころの話ですが、当時の東青梅6丁目はまだ区画整理もされておらず、まだあぜ道のある田圃や畑の町でした。母に連れられて歩いた思い出での場所です。

当時は、まさか後に自分がこの地に住むとは夢にも思いませんでした。

私も、第八支会に住所を置いてから40年以上が経ちました。

地元の諸先輩方に地元のいろはなどご指導していただきながら、色々な行事に参加し、特に子供会の役員時代には、子供の会員が100人以上と今では信じられないような子供たちの数でした。当時は、その子供たちが成人し、子供を儲けて次の時代の自治会を作っていくと思っていたのですが、少子化と言う予期しない大変な時代になり、その反対に高齢化が進み町内にも若者世帯がどんどん減り、町内全体がゴースト化しかかっています。そこで、この危機をどう乗り切ることが課題になっているのですが、この大きすぎる課題はなかなか良い結論

が出てきません。

しかし自治会長として何か出来ることはと考え、そこで思いついたのがあいさつです。昔はよく使っていた「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」ですが、現在では変に声を掛けただけで、「不審者」と思われてしまう様な寂しい時代ですが、自分が拠点を置いている町内会では、向こう三軒両隣から町内一人一人があいさつすることで、お互いに顔みしりになり親しみを持つ事によって若人達が自治会活動に参加しやすくし、子供から高齢者まで一つになって行事等行っていければと思っております。その延長上にひとり暮らしの方への声掛けで、災害時の避難誘導に繋がればと期待しております。

最後になりますが、この第八支会が先頭になり青梅市全体が安全・安心して暮らしていける市になるよう、発展できればと思います。

防災対策・高齢化・脱会防止対策

根ヶ布自治会長 小澤 佑一

第八支会50周年記念座談会の先輩諸氏のお話を拝聴させていただき、これからの自治会運営の取組み方が、私自身少し変わったように思われます。

まず、防災対策について、「中越地震・阪神淡路地震どちらの災害においても、自治会（地域）がしっかりしている地域住民の方々の協力が大勢の命を救った」と言う話をお聞きして、災害が発生した時、真っ先に災害の被災者になるのが幼いお子さんと高齢者ではないかと思われま。災害からの被害を最小限にするためにも、これからは地域住民の方々に常日頃から防災意識を高めていただき、防災訓練等に積極的に参加していただけるような取り組みをしていかなくてはならないと思います。

次に、高齢化と脱会防止策ですが、今どこの自治会も一番この課題に直面していることと思います。私の自治会でも一番の課題です。高齢になればなるほど、お互いに支え合う自治会活動の重要性と必要性がわかっていて、本当は「自治会を脱会したくない」と思っている会員の方もかなりいるのではないかと思います。しかし、高齢になると体力・気力も衰えてきます。そんな中、私の自治会では2年毎に1回組長とか何かの役が回ってくる隣組もあり、このことを負担に感じ自治会を脱会する世帯も少なくないと思います。一度脱会するとなかなか再加入してくれないのが現状です。

脱会を食い止めるには、もう一度隣組を見直す必要があります。何でも相談のできる隣組づくり、それには常日頃からコミュニケーションを大切にされた取り組みを進め、そして脱会者世帯を一世帯でも少なくしていきます。このようにして、明るく・住みよい街づくりを目標に、地域のお祭りやイベントを大切に、活気のある自治会運営に努めていきたいと思ひます。

防災活動について

師岡町1丁目自治会長 高野 惣一

関東で30年以内にM7クラスが70%の確率で発生すると予測されています。過言すれば確率論上で今発生すると言っています。

20××年東京湾深海（※1）を震源とする大地震と直後の大津波により首都機能は全く機能不全に至り、それに乗じて隣国からの脅威が増し。さらに奥多摩付近の山崩壊（※1）で多摩川が堰き止められ大崩落の危機、それらに注力するあまり青梅市内の災害には力及ばずの状態。余震により立川断層が大きく歪み七日市場付近で霞川が堰き止められ（※1）、温暖化の影響か大型台風の重なる通過と、昭和2年を思わせるソフトボール大の雹で追い打ちの大打撃。（※2）霞川沿いの吹上小、四小、公園も水没し、これらの避難場所は全くの機能不全。四小付近で崩壊しダムが出来、以西の霞川は小曾木川に流れ込み、東青梅から以北側へのインフラは霞川ダムにより全て寸断される。我々災害避難民は、わずかに残った畑にも法的な問題で避難出来ず。また地元民が避難してしまっているために他の自治会館、センター、市役所等へも避難できず。幹線道路をさけて道路を占拠し野宿する始末。避難所生活に周りは見知らぬ人々、滞りがちな物資の配給に、「自治会に入っていない人が並ぶな」、「こんな人知らないぞ」と、喧噪の嵐！

そして精神的肉体的疲れ果てた自治会役員たち！

と、脳内シュミレーションした結果、激甚災害では、避けようが、対応しようがない状況です。

そんな中、避難所で見知った人、ご近所の方に会ったらどんなに力強いでしょうか。婦人部、運動部の方々、中高校生のちょっとした手助けがどれだけ力になるか想像してみてください。絶望的状况で力となるのが、行政と支会とのパイプ役になれる歴代の自治会役員、現役員、自治会内の取りまとめや、こまごまと活躍出来る婦人部、運動部、子供会、中高校生、そして、力づけ、安心感につながる顔見知りのご近所、顔の見える人。

そうです、結局は、ありきたりですが、日頃のなにげない自治会活動、催し物への参加、近所との挨拶、回覧板を次に回すだけでもそれがいざというときの活動につながるのです。また、日頃は、防犯活動につながっているのです。

※1 地質学的 と ※2 歴理的 は事実です。学校名他省略記載しています。

自治会員の高齢化に向けて

師岡町2丁目自治会長 野崎康嗣

師岡町2丁目自治会は、昭和48年4月11日に下師岡下自治会定期総会から始まり現在に至っております。

当時の記憶からは、道普請、煙霧消毒など現在の自治会活動とは、内容が異なりますが、多くの自治会員が動員され協力し活動されていたようです。

さて、当時から比べて、189世帯（昭和48年）から372世帯（平成28年）と増加（ただし加入率は大きく低下）しているものの、全体的に高齢化が進み、子供の数は減少傾向にあり、今後5年先、10年先を考えると、若い方々が増加する見込みは全くないと考えられます。

- ・子供の数が減少（小中学生が少ない）しているのと、成人になると市外に移転
- ・新たに、市外から転入する方々が多くは見込めない
- ・高齢化世帯の増加
などから、
- ・核家族化の拡大による、世代間で継承されるべき知識や経験の減少…高齢化世帯の増加
- ・自治会役員及び各種役員の担い手不足…役員選考の困難化（悪循環のスパイラル）
- ・高齢化世帯の増加に伴い、防災・防火対策の範囲（対象者）拡大
などの高齢化に伴う課題があげられ、隣組や地域のつながりも昭和40年代と比べると密度が薄くなってきたように感じられる。

また、個人情報保護法により、自治会の最も大切な情報として会員の世代構成内容（年代別、特に小中学生などの実数）がはっきりと把握できない状況の中で、師岡2丁目自治会としても対策について、検討するも長年有効な対策について苦慮してまいりました。その対策として、

(1)若い世代の増加が見込めないことから、元気な高齢者の活用を図る。

- ・元気な高齢者の増加対策
- ・高齢者を老いさせない対策(どのような対策ができるか、多くの方の意見・提言を集約し実施)

(2)役員免除

・健康上等で、役員業務（組長）が困難な高齢世帯の役員免除（「組」単位でそれぞれ考え方が異なるため、実施済とそうでない組があるため、どのように自治会として関わるか検討）

(3)若い世代の活用

・貴重な若い世代の取り込み（これからの担い手確保）等の対策に加え、災害時には「自助」が基礎となるが、高齢者だけの世代では「共助」が大きな力になる事は、過去の甚大災害から経験済であり、災害時の対応も加味した対策も追加し、実現可能（自治会員皆さんの多くのご協力とご理解をいただき）な対策を立てて、より安全・安心な自治会として若い世代により良い自治会を継承していきたいとのおもいで今後の自治会活動を進めていきたいと思っております。

学校と地域との連携の推進

師岡町3・4丁目自治会長 宮口 泉

今日、自治会活動の置かれている状況は極めて厳しい状況にある。加入率の低下は歯止めを知らず、脱会者の激増と相まってまさにじり貧状態にある。

しかしながら、自治会活動に携わる私どもにとってこの状況を看過することはできない。なにかを手掛かりにこの閉塞状況からの脱出を図らなければならない。

私は、自治会活動再生の切り口を「学校」との連携に求めたい。言うまでもなく「学校」は地域コミュニティの核として存在し「児童」、「生徒」、「保護者」、「教員」によって構成されている。更にそれを包み込む「地域」の存在がある。近年「学校」はその閉鎖性からの脱却を図り、学校開放、外部評価の導入、学校運営連絡協議会の設置等透明化に努めてきた。

そして、学校が今一番に求めているのは地域との連携である。ここに学校と地域との連携の接点が見出せる。第八支会は手始めに、第八支会に関連する小中学校長との親睦会を持ち、これから積極的な交流をしていくことを相互に確認した。

交流の第1弾として、第八支会防災訓練への中学生の参加がある。防災訓練の中で「避難所設営」「炊き出し訓練」を担当してもらった。第2弾としては市民運動会へのボランティアとしての参加、第3弾は第八支会50周年記念事業での児童・生徒の作品の出品と交流の輪はどんどん拡大してきている。今後も益々交流を拡大していきたい。

子どもが「学校」との連携を志向するのは、児童、生徒の背後にいる親の存在にあることは言うまでもない。少子高齢化の今日、何とか親の目を自治会に向け加入へと繋げていきたい。「子供会」がどんどん消滅していく今日、若い親御さんの獲得は喉から手が出るほどである。

加入促進の実を上げるには、前年度踏襲型の活動からそれぞれの自治会独自の個性を追求し魅力のある活動の創出が欠かせない。自治会連合会の下、加入促進を図り、自治会活動の充実に努めていく。

自治会活動は異日常の取り組みにある

多摩団地自治会長 池田 政次

「自治会というものは、無形のものであって、普段やっていることが災害があった時の訓練だ。」
「みんなが顔を知らなくちゃどうしていいかわからないだろう。」
「自治会は今、余分なことをやっていると言うんですけれど、やっぱり余計なことをやって喜んでいただければ・・・」
「地域の安全、防災、とにかく住民の安全を守るというのが自治会長の最大の使命だろうな。その上で親睦を図る・・・」

上記の貴重なご提言を第八支会創立50周年記念座談会で先輩諸氏からいただきました。

私も全く同感です。先輩諸氏は日常生活とは違って災害があった時のための訓練・余分なこ

と行う異日常の生活を大切に、非日常の生活（災害発生時）に備えることが大切だと提言されています。

私は異日常生活での取り組みが自治会活動の根本であり、非日常の生活（災害非常時）での取り組み支えることになると考えています。そこで、日常・異日常・非日常の関係を防災を例にして以下述べてみます。

◎日常の取り組み・・各家庭で安全な家庭生活を守るために、消火器の設置・地震への各種対策・ハザードマップの確認等を行う。

◎異日常の取り組み・・日常の取り組みとは異なって、組織として『災害を想定しての訓練』を行うことである。つまり、自治会活動そのものである。異日常の取り組みは、日常の取り組みと異なって組織で活動するため、様々な訓練が想定され実施される。

◎非日常の取り組み・・災害発生時の取り組みである。異日常での様々な防災活動の取り組みが住民の安全を守るために生かされる。

終わりに、異日常の活動（自治会活動）には組織としての苦勞があります。組織としての苦勞の中で、皆が活動してやり遂げる喜びを共有出来たときに、その活動は「仲間」としての自治会の活動となり非常時に生きると確信します。

自治会長として

旭ヶ丘団地自治会長 小野 憲 治

旭ヶ丘団地自治会長としては、高齢者が多くこれからの自治会運営が大変になってきます。自治会の役員体制も、よく考えなくてははいけません。今若い人たちが自治会に関心を持って、夏祭り、文化祭、運動会、その他の取り組みに参加してくれています。

若い人たちの力を借りて、協力してこれからの自治会を築いていくようにして、頑張っていきたいと思います。

自治会長としての取り組み

グリーンサイド東青梅自治会長 杉 藤 哲 郎

グリーンサイド東青梅は、昭和56年に建てられた青梅で最も古いマンションの一つです。

少人数ながらもマンション単独自治会を構成しています。

元々近所づきあいも盛んで、以前は夏祭りを催し、近隣自治会とも交流を続けてきました。現在も、地域のスポーツ大会、市民運動会、草刈り、川掃除、防災訓練等で、地域活動に参画しています。

現在私は、マンション管理組合から防火管理者を任命されており、一昨年、久々に防火訓練

を行いました。次は、通信訓練を中心に行う予定です。緊急対応の手順を決めて、検証することが目的ですが、気軽に訓練に参加して、住民同士の交流を通して、子供が楽しみお年寄りが安心できれば、よいと思います。

マンション内の訓練は、主に防火訓練ですが、防災訓練は、地域と協力して進めて参ります。今年は第八支会の防災訓練が、青梅総合防災訓練としてマンション隣の第四小学校で行われますので、この機会を利用して、実際の避難行動を学び、様々な防災活動を体験して、災害に備えたいと思います。

また、東青梅2丁目交流会の一環として、東青梅2丁目第2自治会が進めてきました炊き出し訓練を、12月に東青梅2丁目全体で合同開催する予定です。

第八支会内には、防災活動に力を入れている自治会も多く、こうした取り組みを参考にし、諸先輩方から教示を受けることができるのは、とても恵まれていると思います。

ゆくゆくはグリーンサイド東青梅の活動を地域の集合住宅で防火・防災に生かすことができるよう、活動を進めていきたいと思っています。

第八支会50周年記念に際しての自治会活動について

バームハイツ河辺自治会長 塩 島 栄

高齢者の脱会防止についての考察

バームハイツ河辺は師岡2丁目にあり、この地域としては比較的早い時期に建設された150世帯超のマンションです。

マンションを購入したのは当時30歳代であった団塊の世代でした。

B・H河辺自治会は昭和60年（1985年）に発足いたしました。自治会加入世帯数は常に90%を現在まで維持しておりますが、30数年間に自治会員の年齢も高齢化の一途を辿っています。

高齢者の脱会防止について

われわれ自治会の中での自治会脱会事例は今のところ発生してませんが近い将来どこの自治会でも避けて通れない問題となるやもしれません。

脱会するのはそれなりの理由があると思いますが自治会運営に起因するのであれば対応策を必ず見つけ出す努力も必要と考えます。

そもそも自治会は誰のために、また何のために継続させようとするのか真剣に話し合うことが必要と考えます。我々自治会も30数年経過し今の時代に適合した運営になっているのかはなはだ疑問です。

ひょっとすると自治会運営の根本的な変革が必要な時期かもしれません。

しかしながら必要に気づいても直ぐには変革できないのが世の常であります。

話し合いに依る意識改革が先決かもしれません。時間をかけて少しずつでも確実に前進させることが求められます。

また一方では市を初めとする上部組織から各自治会に対する指示内容において何でもかんでも支会、自治会に依存する体質を改め、自治会への負担が少しでも軽くする行政努力を要望したい。

B・H自治会の今後

現在の自治会員の生活にマッチした自治会運営を模索する（負担軽減）

- ①会長を始めとする役員を選出方法（適任者等の情報を広く公募する等）
- ②役員組織構成の見直し（行事時には、その都度、組織を再編し全員参加で臨む）
- ③各役員の役割分担の軽減化
- ④高齢者年齢制限による自治会員の役割免除等の検討（多摩団地自治会事例引用）

その他

単独自治会だけではできない面もあるので機会あるごとに、他自治会との勉強会が開けたら有りがたいと考えています。

以上

「コミュニケーションの取り方」

ハイホーム東青梅自治会長 猪 憲 一

当自治会は、東青梅駅より歩いて30秒のハイホーム東青梅マンションです。地の利は非常によく、そのためか築20年余りを過ぎても今だに毎月のように引越しが行われております。

そんな中で全戸お住まいの方の名前は勿論、顔すら見たことがない人が半数はいます。

こういった状況で、全員の意見を纏めることは不可能と考えます。それでも何とか少しでも多くの人とコミュニケーションを取れるよう「挨拶の励行」を心がけることから始めました。初めは返事のなかった人も、そのうち答えてくれる人が増え、一応の効果が出ております。次に行ったのは「第八支会行事への参加」です。これは自治会独自としての参加は無理なのでグリーンサイド自治会と協力して参加しておりますが、自治会役員だけの参加が殆どで困った問題となっています。

当自治会の最大イベントは毎年12月に行う「餅つき大会」です。これは私が12年前に道具一式を買い揃えて始めた行事ですが、以来11年間にわたり固定化した行事となりました。この時だけは普段顔も見ないお年寄りから子供達も集まり賑やかに行っております。年一回ですが一人暮らしの方々の確認もできて安心させてくれる行事となりました。

また、数年前からはグリーンサイド、東一の自治会員の招待なども行っており、お付き合いの幅も広がってきています。今年は自治会長全員の招待も予定するつもりです。

よもやま話



東青梅市民センター（地図①）

自治会組織の中心となる当センターは、昭和52年に瑞穂町長岡に移転した青梅鑄造（株）跡地に建設され、昭和53年から利用されています。当センターの北側の霞川から青梅線までほぼ直線に延びる道路は線路を渡り河辺駅（当時は南口のみ）まで。

鑄造で使うコークスの匂いが畑の中で異彩を放っていました。

センターの前の道路が、旧の青梅街道で北側が豊岡街道、主道路に挟まれていたので、道間と呼ばれ、現在は道間公園として名が残っています。また、同様に両道路に早く出られたからか、早道と呼ばれ、早道公園として名が残っています。

※青梅鑄造(株)HPより一部抜粋



鉄道馬車（地図②）

森下から豊岡街道を經由して入間川町（現・狭山市）まで中武馬車鉄道として線路がありその上を馬車が引く鉄道がありました。明治34年6月に扇町屋～師岡間を開業し、9月には全面開業、明治40年7月には青梅鉄道改軌にともない師岡～青梅間を廃止、大正6年9月に全面廃止。

馬が、引いていたのですよ。これに乗ってお嫁に行った方もおられんじゃないですか？

瀬戸の花嫁ならぬ、鉄道馬車の花嫁 ※青梅市史より一部抜粋



青梅市のパンフレットより 12人乗り入間まで20銭



天寧寺坂通り（地図③）

成木街道があるのになぜ並行して天寧寺坂通りがあるか？（またはその逆）工事が大変なのになぜ2本も考えた方も多はず。大正7年、浅野セメント（株）が、黒沢地区からの石灰石運搬に東青梅駅から黒沢2丁目まで専用鉄道を敷設した。梅ヶ平（成木6丁目）までの延長計画もあったが、採算割れのためか、大正11年に廃止された。短い線路と、短い期間だったために地図に載ることも無かったようです。50年くらい前には、枕木が放置されていたような記憶があります。※小曾木近代史より一部抜粋

昭和30年～40年代市内では、忍者部隊月光、キーハンター、仮面ライダー、プレイガール、子連れ狼等々の撮影場所に使われており、天寧寺も隠密剣士の世界になっていた。



天寧寺山門



電車道の様に曲がっているそうです

分校（地図④）

現在の簡易裁判所およびその横の広場は、分校の跡地です。3年生から青梅第四小学校へ通うようになるので第四小の分校と勘違いされますが、当初は青梅第三小学校の分校です。



明治39年4月霞尋常高等小学校（現・第三小）創立に伴い、師岡分教場開校、昭和30年4月に第四小の分校となり、昭和36年に第四小新校舎落成に伴い廃校。

つい最近まで、井戸と給水塔のセメント櫓が残っていました。（非常用として現存）そして、桜の大木は健全で春には花を咲かせます。

廃校後の桜と井戸

師岡追分（地図⑤）

旧青梅街道と豊岡街道の分かれ道（追分）は、東青梅3丁目にあります。

師岡追分といわれる道標石。

バス停の名も「師岡追分」でした。

「右 江戸道」「左 飯能川越道」とある。天明6年3月吉日（1786年）

現在は、南無阿弥陀仏の文字が読めます。是非、後世に残してほしいですね。



右 江戸道、左 飯能川越道



東青梅四丁目の追分（地図⑥）

東青梅四丁目自治会館（石神神社）の追分

願主 木崎

右 大山 八王子 道

左 箱根 所沢 道

と読めます



右（大山八王子道）は、多摩川橋あたりを渡ったのでしょうか

東青梅四丁目自治会館は、夏祭りの会場でもあり、青梅マラソン当日は、ボランティアで開放しています。

石神神社は、青梅総合病院を建てるためにこの地へ遷宮されています。

追分先頭の石が道標石です

東青梅駅（地図⑦）

昔、東青梅駅の周辺の土地を広く持っていた 山崎キヨさん。駅を作るので売ってくれということに当初反対していたのですが、最後は、師岡駅という名にするならということと土地を提供、で、実際にできたら東青梅駅。約束が違うってんで裁判までしたそうです。

結果は今のまま。でも、師岡駅の方が面白いな。

ある方より、霞村にあったから霞駅にというのは聞いたことがある。漢字一文字の霞駅っていうのも面白しろいですね。

戦争中の昭和20年2月5日にP51による機銃掃射、都立第九高女（現・多摩高校）2年生即死しています。

北口近くに通称「三菱ハウス」、昭和8年にオープンしたガソリンスタンドです。三菱の赤いダイヤモンドマークが建物の上部に付いているからには、「三菱石油のガソリンスタンド」（三菱系）であつたに間違いのない。推定ですが、青梅市で一番古いガソリンスタンドか？



昭和2年5月15日^{ひょう}電害（地図⑧）

電被害碑

新町の御嶽神社の大鳥居を入れて左奥に建っています。

正面一番下に 霞村 新町

真ん中に 電被害記念碑（と読めます）

その上に 昭和二年五月十五日

そして、一番上にソフトボールより大きめの丸い石が鎮座、この大きさの電だったそうです。

時間的なことから推定ですが昭和2年5月15日に電被害に合い、新町、霞村の養蚕、稲作を主とする農産は全滅。全村の有志がすぐに行動を起こし、災害対策事業を受けることができ、翌年（昭和3年）には対策事業が開始～昭和4年に終了、この記念碑を建立。（区画整理後、御嶽神社に移設）

このときの対策事業では、師岡地区でもそれまではあぜ道程度であった道から（今の道と場所が違う）妙光院の前から東に延びる大通りに、妙光院のすぐ東側の山を崩して切り通しにして吹上に通じる大通りに、その後、区画整理によって今の道になったものです。

この対策事業では女性や子供まで出て作業に参加したそうです。



霞川（地図⑨）

吉野織部之助（よしのおりべのすけ）の時代ごろ（推定）、あばれ川の霞川、長い間に北へ南へ位置を変えた霞川で出来た沼、そして田んぼだった。昔々、師岡町1丁目～師岡町2丁目の全域、がけに沿って霞川が流れていたそうです。（「がけ下」と今でも呼ぶ方がいます）田んぼを良くするために、その間を、ほぼ今の川の位置に作り変えたそうです。

その名残りか、当時掘った土を積んだのか川の南側直近が他より高くなっていたところもありました。また、公札橋のあたりに水車小屋もありました。

昭和40年代に現在の霞川に改修され、その後に氾濫した記録は無いようです。



改修前の霞川



改修中の霞川 奥に第四小を望む、中下の板に「清水建設現場 霞川河川工事 板柵施行中」と読めます。板柵、蛇籠、現ブロック造と変貌しています。

霞村土地宝典

昭和10年4月5日発行 非売品 東京府西多摩郡 霞村土地宝典 地番反別入地図⇒つまり、地番（住所）とその土地の面積（たぶん坪数）が記載されている今の住宅地図みたいなもので、配布されているので旧家には残っていると思われます。



見開いた状態

東青梅駅付近 字大塚と読めます。駅から引き込み線がレ点のように出ています。

青梅市役所・平和の像（地図⑩）

旧市役所に設置されていましたが、移設。青梅市議会は昭和33年4月5日世界連邦平和都市宣言を決議して中外に宣明し、本庁舎（旧庁舎）新設に当たり昭和36年4月5日に建設。青梅市在住の彫刻家松野伍秀作です。



青梅市役所全景



青梅市役所・ボッパルト姉妹都市50周年記念の鐘（地図⑩）

平成27年、鐘は2個造られボッパルト市と青梅市に設置。

昭和40年9月24日に姉妹都市となり、その後青年の交流は続き、両市の間でご結婚した方もおいでになります。

横には、同様に送られてきたブドウ棚があります。他に市内で栽培されており、「ボッパルトの栗」のワインが出来ています。



ブドウ棚



青梅マラソン（地図⑪）

遠方に旅行に行ったときに、青梅マラソンの青梅市から来ましたと言うとほぼ理解していただけるほど有名です。

昭和42年第1回青梅マラソン開催、337名参加、当時のコースは、青梅市役所、瑞穂町、村山町、砂川琴平で折り返して六万公園がゴール。今や約2万人参加と多くのボランティア、地域の協力で成り立っています。



六万公園 区画整理の碑（地図⑫）

昭和28年12月より区画整理事業に着手、当時は原野であった303人996筆の171,427坪を整備し公園5,171坪、道路33,172坪、総工費2億余円で昭和39年9月に完了した。この事業で昭和38年7月に六万公園が開園し、その後に記念碑として建てられた。



六万薬師堂

青梅消防署（地図⑬）

昭和48年2月27日青梅消防署新庁舎完成、昭和62年5月1日山岳救助隊発足、奥多摩の山々を始め各地で多くの遭難者を救助しています。平成13年に発足15周年を記念して市民から寄贈されました。昭和61年5月には、自治会との災害時の相互応援協定を締結しています。



共同山と妙光院と師岡会館と（地図⑭）

師岡町二丁目の公園あたりから東側の崖の上に下師岡共有の宅地山林として管理されてきました（共同山）戦争中の薪供給のために立木をすべて伐採し、山林としての利用が困難となりました。昭和35～37年にかけて売却処分し、その代金と、寄付と、特別自治会費をつくり、借入金を含め総費用750万円あまりで昭和37年7月26日に現在の観音堂、愛宕神社、師岡会館、管理棟の地鎮祭が行われました。

先祖の遺産を貴金として建てられた地域の集会場の意義は大きく、現在、師岡町一丁目、師岡町二丁目、師岡町三・四丁目、東青梅五丁目、バームハイツの各自治会の自治会館として運営されています。夏祭りも共同開催されています。複数自治会共同は非常にめずらしいのではないのでしょうか。建設当時方々の先見の明があったのでしょうか。師岡会館で結婚式をあげた方も多いです。その後、東青梅に建設された福社会館（福祉センター）で挙式されるようになってきました。

また、妙光院の境外地ですので、庚申塚、馬頭観音、准胝観音^{じゆんてい}、愛宕神社と祭られています。（昭和50年11月発行師岡会館建設20周年記念誌より一部抜粋）



師岡観音堂境内の全景

20周年記念誌より



師岡会館と夏祭り

青梅第八



支会地図

